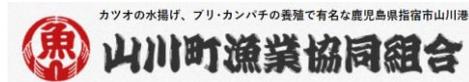


報道関係各位

2023年 5月9日
株式会社アルヌール

アルヌール、山川町漁業協同組合との環境プロジェクトを開始！
～「カギケリ」養殖技術の開発を通じ、地球温暖化抑制に貢献～



パス株式会社（東京都渋谷区：代表取締役 高橋 勇造 東証スタンダード市場 コード番号 3840）の連結子会社である株式会社アルヌール（東京都渋谷区：代表取締役 星 淳行、以下、アルヌール）は、2020年11月設立以来自社のR&Dセンターにおいて微細藻の安定した「屋内連続培養」を行っております。

この度、鹿児島県の漁業協同組合である山川町漁業協同組合と、海藻である「カギケリ」によるブルーカーボン及び牛のゲップ由来メタンガスの削減に向け、新たに環境プロジェクト「**The Blue COWbon Project**（以下「本プロジェクト」という）」を立ち上げました。



天然カギケリ（山川漁港）



カギケリ四分胞子体（実際の顕微鏡観察）

◆本プロジェクト立ち上げの目的

アルヌールは、2022年12月15日付けプレスリリース「微細藻類による牛のゲップ由来メタン削減効果に関する研究開始のお知らせ」においてお知らせいたしましたとおり、ウシ消化管内発酵メタン産生抑制効果の解明をすることにより、2050年までに、日本が目指す温室効果ガスの排出を実質ゼロにするカーボンニュートラルの実現に向けて社会貢献する事を目的としています。

「カギケリ」は紅藻類という海藻の一種で日本を含む太平洋熱帯海域に生息しており、畜産が盛んなオーストラリアでは「カギケリ」を牛の飼料に約 0.2%混ぜて与えることで、牛の消化過程で発生するメタンガスを最大 98%減少させることが確認されています。

参考：「ScienceDirect/Journal of Cleaner Production/Volume 259, 20 June 2020, 120836/Mitigating the carbon footprint and improving productivity of ruminant livestock agriculture using a red seaweed」より

そこでアルヌール及び山川町漁業協同組合では、国内で確立していない「カギケリ」の海上養殖と屋内養殖の技術開発を共同で行うことといたしました。

山川町漁業協同組合は、かつお節の生産のための、かつおの水揚げが有名であり、また繁殖保護事業、山川湾養殖漁場をおこなっており、近隣の海域では天然の「カギケリ」の生息も確認されております。環境への取り組みとして、日本の沿岸部で問題とされている磯焼けについても、ワカメの養殖、ヒラメの放流、水産庁の事業として海藻海草の造成を行なっております。

また、カギケリが実際に生息している**鹿児島県**は、多様で豊かな自然環境に恵まれており、肉用牛の飼養頭数**日本 2 位**の県でもあり、その飼養頭数は 350,000 頭を超えます。

カギケリを養殖することにより、水生生物の生活の場として役割を果たす藻場の再生による CO2 削減効果と収穫したカギケリを飼料に配合することでメタンガスの抑制を畜産の現場で実証し、環境に優しい和牛の商品化までの一助を担えればと、このプロジェクトを立ち上げました。

本プロジェクトでは、「カギケリ」の生息地である鹿児島県の山川町漁業協同組合と、藻類の培養技術を持つアルヌールと共同で「カギケリ」の研究と養殖方法確立により安定供給と海上養殖による藻場の回復拡大を目指し、本来の海を取り戻す活動を行ってまいります。

また今後は、本プロジェクトに参加する自治体や企業を募り、海洋国家である日本において「カギケリ」の大量養殖を海上及び陸上と両側面にて養殖技術の開発および「カギケリ」による「牛のゲップ由来メタン」の削減かつ微細藻類を配合した栄養のある飼料の開発により持続可能な社会の実現を目指していきます。

また本プロジェクトの取り組みは、2022 年 4 月 8 日に策定した「新中期経営計画」で掲げた SDG s 目標の以下のものに対応しております。



※牛のゲップ由来メタン

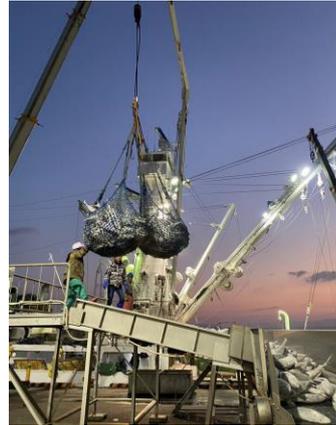
メタンの温室効果は、温暖化の原因の二酸化炭素の 25 倍以上であり、1995 年に開催された第 1 回の気候変動枠組条約締約国会議（COP）から「反芻（はんすう）動物（牛、羊、山羊など）のゲップ由来メタンは地球温暖化の要因」と指摘され、世界各国がゲップ対策に取り組んでいます。

■山川町漁業協同組合について <http://jf-yamagawa.jp/>

組 合 名 : 山川町漁業協同組合

住 所 : 鹿児島県指宿市山川福元 6717

漁業協同組合紹介 : かつおの水揚げ、かつお節生産、いぶすき 菜の花カンパチ、繁殖保護事業、山川湾養殖漁場



■株式会社アルヌールについて <https://www.alnur.jp/>

会 社 名 : 株式会社アルヌール

本 社 : 東京都渋谷区神宮前六丁目 17 番 11 号 JPR 原宿ビル

R&D センター : 東京都豊島区高田一丁目 25 番 3 号

代 表 者 : 代表取締役 星 淳行

創 立 : 2020 年 11 月

資 本 金 : 3000 万円

事 業 概 要 : 微細藻類の培養装置及びそのオペレーションノウハウを基幹技術とした、バイオメディカル・ヘルスケア分野及び CO2 削減等環境分野における研究・開発及びその技術提供、関連商品販売

<報道関係の方からのお問い合わせ>

パス株式会社 担当 小佐々 由美

TEL: 03-6823-6664

E-Mail : ir@pathway.co.jp